
Original Song's Lyrics Vol.1

雪宮鉄馬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Original Songs Lyrics Vol. 1

【Nコード】

N5815P

【作者名】

雪宮鉄馬

【あらすじ】

思いを歌詞こたばに乗せて……。自作オリジナル曲の歌詞をあつめた、歌詞集です。

はじめに

はじめまして&こんにちわ。

本作、「Original Songs Lyrics」（以下OSL）は、小説ではありません。

ジャンルは「詩」ですが、ポエムではなく、歌詞となります。すべて、自作した楽曲の歌詞であり、特段の事情がない限り、責任はすべてわたしにあります。実は、八年ほど前から、趣味の一環として書き溜めてきたオリジナル曲の歌詞を、死蔵させてしまうのはもったいない。誰かの目に触れることができたなら……そんな風に考えて、暖めてきた企画です。

楽曲の歌詞なので、音楽（メロディ&伴奏）も存在しているので、わたし自身は、個人サイトを所有していないので、曲そのものをお聞かせすることが出来ないのは、甚だ残念に思います。

曲あつての歌詞、歌詞あつての曲なので、もしも、曲をお聞かせできるよい方法などございましたら、ご教授下さると幸いと存じ上げます。

とりあえず「OSL」では、過去八年以上にかけて、ちまちまと製作してきた、語彙力も描写力も乏しいわたしの駄作詞の世界観のみをご覧いただけたら、と思っておりますことを、ご了承いただきたいと考えています。

また、各歌詞の末尾には、「ライナーノーツ」という形で、その歌詞に対する、簡単な「製作後記」のようなものを付記しております。どういうコンセプトで書いたのか、書いたときの思い出などを振り返っており、詞のあくまで参考としてご覧下さい。

そして、もしも、「自作小説に歌詞を引用してみたい」「お前の曲など聴きたくはない。俺が曲を付けてやる」、という、神さまの

ような、とってもありがたいお申し出があれば、ご一報下さい。喜び飛び跳ねて、委細に応じたいと思います。

さらに、まことに我侬ではありますが、もしも歌詞をご覧になって、何かしら思うことがあれば、ツツコミを含めて、ご意見・感想などもお待ちしています。

※ 携帯のディスプレイだと、きちんと表示されないかもしれません。が、ご容赦下さい。

雪宮鉄馬 2010/12

#1 『雪が降る前に』

『雪が降る前に』

あれはたしか十二月前の まだ冬の初めの頃
偶然とか必然じゃなくて 君がそこにいたあの日

なぜ選ばれた人が君かと 神様に尋ねて
それでも答え 返ることもなく 静寂が包むよ

この頬を伝う僕の涙 雪になり街を白く染める
もう巻き戻らない その時間が ずっと僕を悲しませるよ

透き通った声も聞こえない 温もりも思い出せない
この世界は闇に覆われて 独りじゃ明日も見えない

冷たい君の手 触れることさえ 僕には出来なかった
これが夢なら 幸せだよと 眠る君に言って

この頬を伝う僕の涙 雪になり街を白く染める
もう君と行けない その未来を 歩くのは僕一人だから

それでも 胸に残った君の優しさがあるから
流れる時を生きて行かなくちゃ
止まった足を前に踏み出して

この頬を伝う僕の涙 雪になり街を白く染める
でも振り向かない 君と僕の最後の約束だから
そう 君と歩いてたあの昨日を ずっとずっと 忘れはしない

《ライナーノーツ in 「雪が降る前に」》

ライナーノーツと恰好つけていますが、要は「後書き」みたいなものとご理解ください。

記念すべき(?)一曲目に選びました「雪が降る前に」は、数年前に書いたバラード調のゆったりとした曲で、ピアノ伴奏を主体とした曲想はかなり切ないメロディとなりました。

が、しかし、曲をお聞かせできないのが、わたし的には、もったいないです……。

何か良い方法はないものでしょうか？

それはさておき、歌詞のテーマは一見するとよく分からないかもしれませんが、「死別の歌」です。そう言うのと、とても聞こえが悪いかもしれませんが、レクイエムのように思えるかもしれませんが、そうではなくて、主人公が愛する人とか大切な人の死を乗り越えて、逞しく生きていく、というものが根底のテーマにあります。色々曲を書いていると、テーマに困窮するようになり、ある日フツと至ったのが、このテーマでした。何故思い至ったのか、は今でもナゾです。しよっぱなから、重い曲ですみません……。

#2 『Rise Up!』

『Rise Up!』

限界を超えても ギリギリ今に縋っても

この脚は重くて動かない 前も向けやしない
差し伸べられている 優しさを払いのけても
立ち向かうこの想いが 暗く涙に染まってく

だけど 言えない言葉を閉じ込めたなら

悲しみ振り切り 立ち上がる

走れ!

きっと出来るから まだ終わりじゃないでしょう?

傷ついて倒れそうでも まだ戦う力が

少し挫けそうな 心を支えてくれるはずだよ

君は何度でも立ち上がれるよ

数え切れないほど 打ちのめされて来たけれど
守りたいものがあると心に言い聞かせていた

だけど 強がる想いが折れそうなとき

優しく見守る人がいる

走れ!

絶対負けない 強い想いがあれば

戦い終わらなくても 傷ついた腕上げて

いつも信じてる わずかな希望の光に意味があると
教えてくれたその声を

走れ！

きっと出来るから まだ終わりじゃないでしょう？

傷ついて倒れそうでも まだ戦う力が

少し挫けそうな 心を支えてくれるはずだよ

君は何度でも立ち上がれるよ

《ライナーノーツ in 「Rise Up!」》

第二曲目は、「雪が降る前に」とは打って変わってのアップテンポのロックチューンです。惜しみなくギターを効かせ、ベースも飛び跳ねています。前奏では、ブラスも入ります。

タイトルの「Rise Up!」は「立ち上がれ!」という意味でつけています。

コンセプトとしては、笑われてしまうかも知れませんが、ヒーローがイメージの詞です。ヒーローと言っても、ウルトラマンとか仮面ライダーではなくて、いろんなシーンでのヒーローです。スポーツだったり仕事だったり。そういったシーンで、負けたり、挫けたりしている人に「まだできるはずだよ!」というメッセージを送る歌詞、というコンセプトで製作しました。そういった意味では、応援歌っぽく見えるかもしれません。

ただ、曲自体は応援歌っぽくはないです……。

#3 『シリウスの子』

『シリウスの子』

アパートの屋根に上って 夜空を見上げてみたけれども
そういえば今日は曇り 星が見えるはずもなかった
次の日は雨が降って その次の日には嵐になり
なんだか不運と言って 君は星見表を回した

宇宙の果て光る星は 僕らを灯す明かりのように
何百年変わることなく 輝いているのに

コンビニの袋提げて 買出しも準備も万端と
意気込んで上った屋根 街の灯で星が見えない
お手製のプラネタリウム これで我慢するしかないのと
君が悲しそうに言う 僕も少し寂しくなった

写真のような夜空なんて 都会じゃなくても見られない
そんな時に生まれたのが ひどく恨めしいよ

神様がくれた奇蹟 街中が突然の停電
チャンスだと見上げた空 シリウスが一際光った

瞳の奥満天の星 こぼれ落ちた君の涙は
悲しみじゃなくて 少し笑顔交じりだった
宇宙の果て光る星は 僕らを灯す明かりのように
何百年変わることなく 輝いていたんだ

《ライナーノーツ in 「シリウスの子」》

バラード、ロックときたらポップスだろう、と言うことで白羽の矢を立てた「シリウスの子」は、明るいポップソングとして書きました。

シリウスというのは、星の名前です。冬の大三角形を構成する一等星のひとつにして、太陽に次いで明るい天体として知られています。歌詞を書いた当時は、知りませんでした。歌詞が冬っぽくないのは、そのためです。

宇宙や星と言うものが好きで、そういったものをコンセプトチュアル・テーマに書いた曲・歌詞のひとつとなります。比較的故事り性のある歌詞で、起承転結の物語を歌詞の中に盛り込んだのは、後にも先にも、今のところ、この歌詞しかありません。

#4 『グラフィティ』

今瞳閉じて 聞こえるよあのチャイムの音が
色褪せてた 机の落書きのように
いつも すれ違ったり 悩んだり ぶつかった日々も
そっと 胸のアルバムに仕舞ったよ

夢を追いかけるのは とてもつらいけど

輝く未来に 手を伸ばして
陽だまりの校庭を 君と歩いた
僕らは両手に 抱えきれない
希望とまだ知らない 明日へと歩き出すよ

夕日に染まった 放課後の教室の隅に
描いた未来の予想図 今も同じ

いつか時が過ぎれば 忘れてしまうの？

眩しい明日が 見えなくても
板張りの廊下で 君と笑ってた
旅立つ不安に 挫折そうになってしまう時には
やさしい風を感じて

この大切な思い出を ありがとう

輝く未来に 手を伸ばして
陽だまりの校庭を 君と歩いた
僕らは両手に 抱えきれない

希望とまだ知らない 明日へと歩き出すよ
眩しい明日が 見えなくても
板張りの廊下で 君と笑ってた
旅立つ不安に 挫けそうになってしまふ時には
やさしい風を感じて

《ライナーノーツ in 「グラフィティ」》

掲載四曲目は、ゆったりとしたメロディの、卒業ソングです。オルガンを効かせたアレンジに挑戦しつつも、なるべく歌いやすい旋律を目指した一曲です。

卒業と言えば、海援隊の「贈る言葉」、松任谷由美の「卒業写真」など名曲が多数そろっています。そう言った意味では、すでに使い古された磐石なるテーマと言えるでしょう。そのため、あえて差別化を狙う意味で、タイトルも卒業をイメージさせない「グラフィティ（落書き）」としました。その一方で、旅立ち（卒業）に対する不安を乗り越えようとする姿を描けないか、と苦心した歌詞です。

結果として、「板張りの校舎ってどんだけ田舎の学校やねん!」とか、「教室の隅に落書きすんなや!」というツツコミが入れられそうなものになりました。

#5 『夜明け前』

夜空を見上げては 瞬く星を数え
涙にかすむ 今日の果て

まだ 行けるよと 君が囁く度に
この手の鍵で 開いてく

この世界に僕だけが取り残されて
諦めて悔やんだ今日が そっと闇に落ちて
明けることのない夜はないと信じて
未来目指す夢のほitori きっと明日が見えるよ

夜空を見下ろして 輝く街を見ては
胸に募る 想いの果て

もう 行けないと 僕が呟くたびに
この手の全てが 消えていく

この世界が君だけを置いていくから
苦しんで躓きながら ずっと闇に落ちる
止むことのない雨はないと信じて
指先からこぼれ落ちた 種が芽生えてくよ

この世界に僕だけが取り残されて
それでも歩き続けてく じつと何かに耐え
もうすぐこの 夜が明けて朝が来ると
雨に光る花を見つめ 遙か旅は続く

未来目指す夢のほitori きつと明日が見えるよ

《ライナーノーツ in 「夜明け前」》

ピアノもギターもドラムもストリングスも大好きです。でも、ブラスセクションがもーっと好きです。何かのテレビコマーシャルみたいですが、この曲はサビ（コーラスといえます）の部分で、金管楽器がアップテンポに華を添える、初めてブラスパートを書いた一曲です。

タイトルをつけるとき、いつもコーラスの部分から特徴的な単語を抜き出す場合と、イメージからつける場合というのがあります。ここまで掲載したすべての楽曲が後者のパターンです。この曲も、どこにも「夜明け前」と言っていないにもかかわらず、夜明け前なのは「もうすぐこの夜が明けて朝が来ると」と言う一文から、タイトルをつけました。

#6 『花は散れども』

桜吹雪 舞い踊る鳥 静かなるは山河の響き
あらゆるものを飲み込む欲望 血に飢えたりし我が手
生を受けて この地にあるは 何ぞ意味の在りしことかと
問いかけるため戦いの中 駆け巡るなら 本望

散り逝く宿命だと 叫ぶ声がする

燃やせ魂 唸れ鼓動 いざ勝負勝負！
華やぎ纏い 気合の一閃
一度きりの人生を 持て余すなかれ
命の限り 傾け^{かぶ}

焰立^{ほむら}つは 戦国の世の 習わしよと 笑い飛ばして
平らげるのは天下か己か 勝^{からどき}闘上げる日まで

槍を持て！ いざ行かん 煙る戦場^{いくさば}に

火の手上がれ 盛大に燃え上がれ人よ
己が命を 賭して生き抜け
風を斬って 闇を斬って 光を導く
命の限り 傾け

散り逝く宿命なら いっそ花のように

燃やせ魂 唸れ鼓動 いざ勝負勝負！
華やぎ纏い 気合の一閃
一度きりの人生を 持て余すなかれ

命の限り 傾け

《ライナーノーツ in 「花は散れども」》

時折、ちょっと変わった曲を書きたくなることがあります。そういうのを「イロモノ曲」と呼んでいます。語源は寄席の「色物」から来ています。

この「花は散れども」はそんな「イロモノ曲」の代表格です。テーマは「戦国時代」。エレキギターと三味線をかき鳴らした、不調和かつ、スピード感重視のロックに仕上げました。

何故「戦国時代」なのか？ と申しますと、わたしが戦国武将が大好きだからです。歴女さんたちには負けません！ まあ、そんなことはどうでもいいですね……。ごめんなさい。

特定の武将をモチーフに書いたわけではありませんが、戦国時代を駆け抜けたサムライのイメージを投影しつつ、歌詞を書いていました。どちらかと言えば、「傾奇者^{かぶきもの}」を主人公とした歌です。と同時に「どうせ一度きりの人生なら、命の限り戦え！」みたいな、暑苦しいメッセージも込めています。

ホント、暑っ苦しい歌詞です……。

#7 『Last Melody』

西日の差し込む窓辺で 眠る君をそっと見つめてた
海からの風に 瞳を細めて
洗い立てのシャツにかかる 君の髪の香りが
記憶の中で 切なく揺れてる

真夏の夕立のよう 涙もすぐ止まる
だからその指先を 離してもかまわない
心の中へと 閉じ込めるよ……

Last Melody 今も聞こえているよ
どんなに傷ついたとしても
「もう一度」なんて口にはしない
想いは波音に消して

サヨナラは永遠で 振り返ったりは 二度としないから
フォトスタンドの中 ふたり笑う 空はもう高くなった
ほのかに夏の匂い残して

君が望む場所なら 何も言わなくても
好きにすればいいさ 呼び止めたりはしない
それぞれの目指す夢の方へ……

Last Summer Breeze 頬を撫でる風に
涙もさらわれていくから
たとえば再び街角で すれ違うことがあっても
気づかないほど君が どこか遠くへと霞んでいけばいい

Last Melody 君が好きだった歌も

今なら心に仕舞えるさ

最後に聞かせたかった言葉を この夏の終わりの日差しに
サヨナラは永遠で 振り返ったりは 二度としないから

《ライナーノーツ in 「Last Melody」》

テーマは「ひと夏の恋」……なんて言ってて、ちょっぴり恥ずかしくなりますが「夏が終われば他人同士」みたいな、バブリーな恋をテーマに書いた一曲であったことを思い出します。と言うのも、この「Last Melody」、かなり初期の歌詞です。恋とか愛とか、あんまり得意なテーマではないのですが、初期には結構書いてました。当時、「歌詞」Ⅱ「恋愛」という模式図（強迫観念？）が頭の中にあっただのです

曲は、比較的歌詞に反してさわやかな曲想ではあるものの、ブリッジ（Bメロ）で転調するため、割と歌いづらい曲です。

#8 『かけがえのない夢だから』

あの窓辺に見える海岸 今も変わらず波に揺れて
もう忘れたはずの涙が 僕の胸を掠めていくんだ

あの時投げ捨てた チャンスへのチケット
君の涙覚えてるよ

かけがえのない夢だから 僕はまだ信じてる
めぐりあえた奇跡 君が抱きしめてた
だから 雨に負けないで 風に飛ばされないで
いつの日か再び この夢を叶えよう

「まだ後悔してる」消えそうな声で泣く 君のその横顔

誰のためじゃなくて 僕が捨てた夢を
拾う背中 見れなかった……

かけがえのない夢のため 僕ははまだ歩けそう？
星が光る空を 見上げてたあの頃
何もかもを諦めて 慣れてく自分がいた
それでも笑ってた 心に嘘ついて

かけがえのない夢だから 僕はまだ信じてる
めぐりあえた奇跡 君が抱きしめてた
だから 雨に負けないで 風に飛ばされないで
いつの日か再び この夢を叶えよう
いつの日か再び この夢を叶えよう……

《ライナーノーツ in 「かけがえのない夢だから」》

クセのある曲、クセのない曲……、この「かけがえのない夢だから」は、非常にクセがなく、さわやかで落ち着いた、歌いやすい一曲になったのでは、と自負しております。

この曲のイメージソースは、90年代にヒットした「ビーイング系」のサウンドやメロディ・センスになぞらえたもので、歌詞もなるべくさわやかな単語を選んで行きました。また、「ビーイング系」と言えば、コーラス（サビ）の頭の詞をダイレクトにタイトルとして、かつ、やたら長ったらしいタイトルが多かったこと、へのオマージュも含まれています。

歌詞の世界観のテーマとしては、「君」のために一度夢を諦めた「僕」がもう一度夢に向かって歩き出す、という実に分かりにくい題材です。

#9 『Sentiment』

眼差し遠いあなたは 少しだけうつむいて
わたしは何も言えずに ただじっとしていたの
唇が「さよなら」を告げることは わかったた

あなたが生まれた街 白い傘を差しながら
すれ違う足音にふと 振り向く

切ない優しさがただ わたしの胸を突き刺す
涙は もう枯れたのに とめどなく溢れてくるのね

その方が 素敵な今を過ごせると思ってた
その方が わたしのままでいられると思ってた
悲しくて 心がただの器になっていく

あなたのことをすべて わかってたつもりなのに
本当は ひとりよがりだったのね

切ない一秒がただ あなたの胸を突き刺す
夢なら 覚めて欲しいと わたしは少しだけ願った

「わたしは泣き虫だけど 何とかやっていけるわ」
最後の嘘ならきつと あなたは気付いているはずよ

切ない優しさがただ わたしの胸を突き刺さす
涙は もう枯れたのに とめどなく溢れてくるのね

眼差し遠いあなたは 少しだけうつむいて

わたしは何も言えずに ただじっとしていたの

《ライナーノーツ in 「Sentimento」》

「センチメントSentimento」は、英語ではなく、音楽の曲想を表す言葉で「切なく、悲しげに」という意味があります。

そのタイトルどおり、非常に切なく、かつダークな曲で、マイナーコードが乱舞しています。所謂「短調」の曲です。間奏では、ヴァイオリンがソロで悲しげなメロディを弾くというのも挑戦しましたが、弦楽器の編曲の技術を思い知らされました。

歌詞のテーマは「別れ」です。恋愛における別れの曲というのは、他にも書いているため、いずれ掲載したいところですが、この曲はその中でも、もっとも悲しい別れを想定しました。「わたし」と「あなた」の間に何があったのか、いろいろと想像をめぐらせていただけと幸いです。

また、初めて挑戦した「女性視点の歌詞」ということも付記しておきます。

#10 『スパイラル』

窓を流れてく 火線の帯を見つめて
星の瞬きに 似ているなと思ってた

空気が淀む世界から 抜け出す術を知らなくて

見つめる目が触れる悲しみは
螺旋のように連なり

兵器が生み出す終わりの声

悲鳴に変わる時が サヨナラ

並列なものは この世に溢れてるのに
不規則に消える 言葉の数は多くて

本当に正しいものが 人それぞれにあるものか？

握り締めた両手の憎しみ
クルリ渦巻きほどけない
潰える命を救う術は

現実と理想から 生まれる

寂しく泣き崩れる子どもを
抱き上げた手は血まみれ
許しを請うことも許されず
また火の雨が降るよ

見つめる目が触れる悲しみは
螺旋のように連なり

兵器が生み出す終わりの声
悲鳴に変わる時が サヨナラ

《ライナーノーツ in 「スパイラル」》

この曲は、歌詞のとおり、反戦の歌です。この曲は少し異質ではありますが、「兵士」から見た、戦争を描いたつもりです。現段階では未掲載ですが、反戦歌は「スパイラル」までに、二曲ほど書いたことがあります。いずれ、掲載したいと考えております。

思想めいた曲というのは、あまり賞賛されたものではありませんが、歌詞の中にいずれにしろメッセージを込めるものだと考えています。その代表格の一つが、平和へのメッセージ、と言っても間違いではないでしょう。実際、「平和ソング」は、ジョン・レノンに代表されるまでもなく、世の中にたくさん存在します。

この曲は、その末席にしがみつきのながらも、他と違い、戦争をしている当事者の目から見た、戦争へのメッセージを込めました。

わたしが「スパイラル」に込めたメッセージが、一体何であるかは、読まれた方の想像にお任せしたいと思います。

曲自体は、ロックテイストではあるものの、かなりマイルドなテンポの曲です。アレンジもスタンダードに行いました。「螺旋のように」と言うところが、異様にキーが高いのが難点です。

#11 『冬が来る』

君の隣で身をすくめ 茜空を見上げるたびに
今年の冬は厳しいと 口癖みたい繰り返すよ

ほらね雪がはらり舞い落ち

僕と君の肩に乗っかる

凍えた僕に君が笑ってた

「一緒に帰ろう」

白い息が街を染めていく

北風が頬撫でて 枯れ木を揺らす

家路までは車窓を眺めて

ふと思う この街にまた冬が来る

バス停 街路のクスノキ 行きかう人 厚手のコート

落ち葉の舞う横断歩道 信号待つ君の背中

すべてが透明に変わって

十二月の風を感じた

凍えた君に僕が笑ってる

「一緒に帰ろう」

曇る窓に冬の夜空だけ

切り取って オリオンが輝いている

君と並び歩く雪の道

ふと思う この街にまた冬が来る

白い息が街を染めていく

北風が頬撫でて 枯れ木を揺らす
家路までは車窓を眺めて
ふと思う この街にまた冬が来る
ふと思う この街にまた冬が来る

《ライナーノーツ in 「冬が来る」》

めっきり冷え込んで、温暖なはずの地元でも寒さが本格化。なので、冬の曲をアップしようと考えました。

比較的明るめの曲調で、ピアノもブラスも効果的に配置できたと、自分的には満足の行く一曲です。

歌詞は、寒さをなるべく感じさせないよう、あったかくなるような歌詞を考え、冬の単語を重ねつつも、笑顔などの単語を積極的に配慮していきました。

また、作曲編曲中から「冬が来る」という部分は何度も口ずさんでいましたので、タイトルもそのものずばり。

ちなみに、どうでもいいですが、きっとバスの車窓は結露になってて、外は見えないだろうな、と経験から思います。

#12 『やまない雨』

青い海 近づく夏の気配 この街にも
風が吹きぬけ 優しい日差し 静かな午後の窓辺
感じれば 支えてくれた人の笑顔だけが
まぶたの裏で眩しく光る 淡いあの日のダイアリー

雨がまた僕らの 肩を濡らし 悲しみを運ぶ
忘れないで 未来まで走る気持ち 今も

もう泣かないで 明日は雨も上がるよ
こんなに笑える君がいるよ

まだ君の中 光る希望
輝いているのなら 知らない未来へ行ける

陽だまりの木陰で眠る君を 見つめていた
明日がないから 彷徨ってしまふ 切ない夢の轍

ノートを破り捨て 雨の中で一人泣いていた
ここにいれば きっとまた涙こぼれ落ちる

もう少しだけ 歩き続けたいけれど
一人じゃ行けない 路の途中

その未来までたどり着くと
残されたわがままが 強がって見せていたんだ

雨が降ってくやまない雨が降ってく
ホントは泣いてはいけけないのだけど
時々涙あふれてくる

それだって明日へと続く希望のしるし

《ライナーノーツ in 「やまない雨」》

今をさかのぼること、約九年前の梅雨。その年は、雨がやたらと降り続いた冷夏だった。そんな鬱屈とした雨の音を聞きながら、書いたのがこの曲です。

どちらかと言えば、やまない雨に対して、怒りをぶつけながら書いたのですが、メロディは優しく、コーラス（サビ）は熱唱できるという曲に仕上がりました。ただ、九年前、今もそんなには変わっていませんが、より歌詞の世界観が拙いです。

#13 『ドア』

自転車で走る君を追いかけて
青い海まで 駆け抜けてく あの夏のように

今も変わることなく進む時が
いつか大人へと 階段上って

ドアを開けるたび 新しい明日が来る
怯えて震えては 立ち止まってばかり
暗闇の中で 過ぎていく季節でも
明日は希望へと変えられるから
ドアをノックしよう

アルバムにはさまれた記憶から
手探りだけど見分けてた 夢は遠すぎて

いつか変わる時が訪れたって
心はいつでも 同じままだから

ドアを開けるたび 新しい日々が来る
不安で泣きたくて 蹲っていても
誰のためじゃなく 自分しか歩めない
岐路に立ってるなら 君の右手で
ドアをノックしよう

夜汽車は月の下で 住み慣れた町を後に進む
涙が拭けるようになれば 笑えるから

ドアを開けるたび 新しい明日が来る
怯えて震えては 立ち止まってばかり
暗闇の中で 過ぎていく季節でも
明日は希望へと変えられるから
ドアをノックしよう

《ライナーノーツ in 「ドア」》

人生には、いろいろな新しい明日を迎えるシーンがある。新生活を向かえる前、そしてその直後は、楽しさや期待感ばかりでなく、どうしても不安や寂しさにかられるものです。

そういった、新生活への不安を抱える人たちに向けた、応援歌です。メロディはなるべく優しいメロディを選び、その上で歌詞は端的にメッセージが伝えられるようにしたことを、覚えていきます。ちょうどこの曲を書いたころ、わたしも新生活に馴染めず苦心していた覚えがあります。

#14 『Stop』

枯れ葉踏む季節 無口な相槌 静かに薫る街頭
一つだけ残る 寂しげな文字が 手紙を埋めてたね

言葉にしたなら 儚く消える
君の影のように 切ないまま

胸に残る あの部屋中 響く歌が
今はただ懐かしいだけ
秋の風が 名残惜しむ 君の笑顔
時が連れて行くみたいで 止められない

雨の日の記憶 笑う人の声 変わらない明日のリズム
白い服なびく 駅のホームへと 途絶えた君だけが

今でも書けない 追伸がひとつ
君の足跡を 辿るようで

忘れられない 歩道橋を走る風に
今も何か追いかけてる
あの涙の意味も今じゃ 遠い空に
霞むみたいで寂しさが 止められない

胸に残る あの部屋中 響く歌が
今はただ懐かしいだけ
秋の風が 名残惜しむ 君の笑顔
時が連れて行くみたいで 止められない

《ライナーノーツ in 「Stop」》

この曲はいわくつきです。

もともとは、一番がバラードタッチだったのに対して、二番からテンポアップしロックテイストに切り替わるという、ある種の奇を衒った編曲を試みましたところ、大不評！！そこで、アレンジを一新して、全編バラード風に書き換えました。今更ながらに元バージョンを聞きなすと、「うん、アレンジ変えて大正解」と思えるようになりました。

歌詞のテーマは、「別れの秋」です。比較的、歌詞の世界観は分かりやすいんじゃないかなろうか、と思っています。

#15 『On Your Eyes (英語詞)』

I want to taking your smiling
face.

I want to brake your poor, loos
ing under clouds.

She said, All of that's my fak
e world.

But I think so, she still neve
r know this world.

becoming like good flat roads.

Carry on you find your life wa
ys.

Those lead you and chenge your
dream, just now.

I sing a song Oh for your need
answer.

It's like a hapiness, roll ove
r your tears.

I tell a tomorrow Oh for you lo
st belief.

It's as a truth, Tears don't r
ide on your eyes.

You turn away. You'er scare w
alls.

You'er stopping now, Because ha

te it yourself.
She said, that's like unclear
sky.
But I think so, she still never
know the sky.
becoming like a strong champ.
Carry on you deny to looking b
acks.
Those fight bad and change you
dream just now.
I sing a song Oh for your need
answer.
It's like a happiness, roll ove
r your tears.
I tell a tomorrow Oh for you lo
st belief.
It's as a truth, Tears don't
ride on your eyes.

(日本語訳詞)

ぼくは君の笑顔をみたい
ぼくは君の不安や暗雲を払いたい
「それは虚構の世界」と君は言った
だけど 君はこの世界を知らないだけだとぼくは思う

道は平坦になるだろう だから

君の人生探しつづけて

それらは 今夢に変わり 君を導いてくれるから

君が求める答えのために 僕は歌うよ

それは涙を吹き飛ばす幸せのように

君が失った信じるもののために 僕は教えるよ

君の瞳に涙が溢れないように 真実を

君は壁が怖くて振り返る

君は自分自身が憎くて立ち止まる

「不透明な空のよう」と君は言った

だけど「まだ青空を知らないだけだ」とぼくは思う

強い勝者になるだろう だから

振り向くことを否定し続けて

それらは 今夢に変わり 辛いことと戦ってくれるから

君が求める答えのために 僕は歌うよ

それは涙を吹き飛ばす幸せのように

君が失った信じるもののために 僕は教えるよ

君の瞳に涙が溢れないように 真実を

《ライナーノーツ in 「On Your Eyes」》

洋楽みたいな曲を作ってみたい。念願だった全編英語詞による、ニセ洋楽を書くことが出来たのが、この一曲です。バラードではないのですが、テンポはゆったりとしており、アレンジもスタンダード

に、アコギ、ピアノ、ドラム、エレキ、ベースと、バンドチックに仕上げました。

しかし、英語は苦手です。中学生のころから、英語が大嫌いでした。だって、難しいんだもん。この歌詞を書くにあたっては、翻訳ソフトを使いながら、文字数に合わせるため、随所で単語を変えたりして、なんとか歌詞にしていきました。そのため、訳文は、本当に意訳であり、本来の意味とは違うかも知れません。また、英語の文法に関しても、素人以下のため、雰囲気で捉えて欲しいと、思っております。

#16 『切ない想い』

春風になびく髪を押さえ 仰ぎ見た
校舎は希望に 満ち溢れてたね

朝もやのグラウンド 走る君の背中
ときめく胸の鼓動 一人泣いていた

あなたが好きだから 隣にいてほしい
だけと言えない 切ない想い
わたしに少しだけ 強さがあつたなら
きつと あなたに伝えられただろう……

教室の席を立つ あなたの笑顔見て
わたしの心が 揺れていたあの日

木漏れ日の廊下に 佇む君の瞳に
映る未来に もう 居場所はないから

あなたが好きだけど 傷つくのが怖い
だから隠した 切ない想い
わたしの弱ささえ 嫌いになれないから
きつと あなたを忘れられないよ……

あなたが好きだから 隣にいてほしい
だけと言えない 切ない想い
自分のその指で 涙を拭けるなら
きつと素直な わたしに出会える
勇気を出して 踏み出した一歩……

《ライナーノーツ in 「切ない想い」》

うがーっ！ ハズかしい！

この曲は、どストレートに女の子の恋愛を描いた歌詞です。これを書いたのは、今から八年ほど前のこと。調子に乗ってた自分を戒めるため、あえて掲載に踏み切りました。

好きだけど…断られるのが怖い。だから言えない、みたいな気持ちを歌にしてみたのですが、アホですねわたし。

曲の方は、当時の目標であったビーイングサウンドを意識しすぎた内容で、一見歌詞だけを読むと、バラードに見えますが、バラードではありません。出来れば、女の人に歌って欲しい（願望）曲ですね。

#17 『Hello Again』

夏の足音聞くたびに 思い出すのは君の顔
ぼくがふるさとを出て行く 雨の降る季節

「忘れない」と口にすれば 君は笑ってくれる？
立ち止まる駅のホームに ベルが鳴り響く

同じ世界だから また会えるよね
この場所で君と Hello Again
変わって行く明日 変わらぬ思い
抱きしめていつか Hello Again

波音のように静かな 白い帽子の君の顔
涙は似合わないことも 分かっていたのに

走り出す列車追った 君の涙をふいて
忘れないよぼくも君も ずっと胸にいるよ

同じ未来だから また会えるよね
もう一度ここで Hello Again
瞬く星の中 夜空見上げて
待っていてほしい Hello Again

夏の風を受けて ここに立ってる
涙も包まれる Smile Again
響く優しい歌 言葉あずけて
君と笑いたい Smile Again

忘れないで また会えるから

この場所で君と Hello Again

変わって行く明日 変わらぬ思い

抱きしめていつか Hello Again

《ライナーノーツ in 「Hello Again」》

タイトルを聞くと、マイリトルラバーの名曲のパクリ疑惑が持ち上がりますが、まったく関係はありません。「もう一度この場所出会おう」と、旅立つ「ぼく」が「君」に告げるところから、Helloをもう一度……Hello Againとなった次第です。

と言うことで、歌詞のテーマも「旅立ち」の歌です。旅立つ「ぼく」と残る「君」の二人の姿を歌詞にしてみました。

曲としては、ブリッジでパーカッション・パートが入るのが、特徴的な曲となりました。その後、パーカッションは時々使っています
が、すべてはこの曲が始まりだったと言ってもいいでしょう。

#18 『宇宙船地球号』

今 眠りから目覚めて 東の空が青くなり
ずっと 綴り続けてきた 今日のページが開いてく

泣いたり 笑ったり 生きていくよ
君の隣で

緑をたたえ 風をなびかせ
鼓動が大地を震わせて
僕らに乗せて まわるこの惑星
その名は 宇宙船地球号

そっと 涙を拭いたなら 旅立ちのベルが響くよ
もう ここには帰れない 遥かに遠く消えていく
どんなに 迷っても 生きているよ
僕は一人で

星の海を渡っていくよ
果てない宇宙の真ん中で
僕らに乗せて 走るこの惑星
その名は 宇宙船地球号

緑をたたえ 風をなびかせ
鼓動が大地を震わせて
僕らに乗せて 廻るこの惑星
その名は 宇宙船地球号

いつの日か 君とまた 廻り合う

《ライナーノーツ in 「宇宙船地球号」》

「宇宙船地球号」とは、アメリカのデザイナー、バックミンスター・フラーが提唱した、地球資源の有限性と人類の繁栄について語る上で、地球を宇宙という広大な海を渡る船にたとえた、哲学的・経済学的な概念のことです。興味のある方は、フラーが一九六三年に記した「宇宙船地球号操縦マニュアル」を紐解いてみるといいでしょう。

しかし、この曲はそういった難しいことは抜きにして、何億年も太陽の周りを廻り続ける母なる「地球」を歌にただけのものです。高尚さも、哲学性も皆無です。そのため、言葉も、リアリティのある風景の描写と、一つまみのファンタジックなものを選び出して使用しました。

曲はゆったりとした、バラードで、ピアノのみで引き語られる前半と、ストリングスやティンパニなどを用いオーケストラ的な広がりをもった後半に分かれています。

#19 『MONSTER QUEEN』

甘い言葉で誘惑の眼差し あなたの悪魔の微笑み
色香それとも純真か分からない 僕はまた堕とされていく

雲が月を覆い隠し 夜風が凍えさせる
たなびく長いその髪に 触れた瞬間に消えてゆく

あなたは怪物女王様 誰色にも染まらない
月影白く光る肌に 誰もが振向くのだろう

罪にやつれた狼も平伏し あなたの天使の微笑み
愛かそれとも支配かも分からない 僕はまた堕とされていく

揺れる水面に口付けて 漆黒に映えるルージュ
夢と幻の狭間で 鼓動が更に早くなる

あなたは怪物女王様 誰の手にも止まらない
星より瞬くその仕草 誰もが見上げるのだろう

雲が月を覆い隠し 夜風が凍えさせる
たなびく長いその髪に 触れた瞬間に消えてゆく

あなたは怪物女王様 誰色にも染まらない
月影白く光る肌に 誰もが振向くのだろう
あなたは怪物女王様 誰の手にも止まらない
星より瞬くその仕草 誰もが見上げるのだろう

《ライナーノーツ in 「MONSTER QUEEN」》

「花は散れども」につづくイロモノ曲第二弾。製作したのは「花は散れども」より先で、カッティングギターや、ブラスを多用した、アップテンポのファンクミュージックを意識しました。

味付けとして、ロック調などもあります。

夜に舞う美しい蝶Ⅱ誰の眼も虜にするが、誰にもなびかぬ絶世の美女をイメージした歌詞です。きっとこの美女は天性のDSだと思います（笑）

#20 『ハルカ』

朝焼けの光る街並み
明日の風も知らず今日がくる
孤独な過去 吊るされた未来
目を逸らさずに

僕の力では壊せない
僕のスピードでは追い越せない
その荒野の果ては遠くて
辿り着けない

だけどまだ

僕は笑うだけ ホントの事なんて
誰も知らず笑うだけ 言葉で濁せても
いつか 言えるのなら
真実を知りたい

こんな自分がただ怖くて
覆い隠すための手が見えない
汚れた手じゃ 何にも触る
ことは出来ない

君の仮面の裏に潜む
笑顔ですべてをかわして行く
それで消えた 夢を笑っても
ただ寂しくて

わけもなく

君は泣いている ホントは何もかも

嘘だったと泣いている 言葉じゃ伝わらない

だけど 言えないから

明日も彷徨ってく

だけとまだ

僕は笑うだけ ハルカナ夢を見て

そして君は泣いている ハルカナ罪のため

いつか 言えるのなら

静かに眠ろう

《ライナーノーツ in 「ハルカ」》

人生で初めて、きちんと書き上げた一曲。それがこの「ハルカ」です。それから歳月を経て、編曲を一新しつつ、さらに歌詞も一部変更をおこなって、完全な形で完成させました。

手段がないためお聞かせできないというのが、心苦しくもあります。が、バラードタッチな曲で、出だしのピアノが印象的な一曲に仕上がりました。

歌詞は、当時ハマっていた、禅問答的な、哲学的な、意味のよく分からない歌詞になっています。フィーリングとニュアンスだけで受け止めていただく他、いま現在のわたしにも解説することは難しいです（笑）

#21 『ノアの方舟 Ver. 2002』

ある日神様が言ったよ

「大洪水が起きて、この街は海に沈むから、今のうちに逃げ出せ」
ただど誰も信じようとはせずに ただ笑いあっていたよ

ぼやけた記憶に 笑う人と同じ僕は

この都会に流され
どこに辿り着くのか？

この惑星^{ほし}は そう ノアの方舟^{はこぶね}

君を乗せて廻るよ

この宇宙^{そら}には 星が輝く

君は少し泣いてた

笑い話にもならない 神様のお告げでも

ノアは一人舟を造って 皆に嘲笑われ

それでも答えはひとつしかない ただ信じることだけと

不安がる僕に 君は笑い そっと囁く

「ノアのことを笑った人たちはどうなったの？」

この惑星は そう ノアの方舟

僕を乗せて廻るよ

この宇宙には 風が吹いてる

君を包みこむように

この惑星は そう ノアの方舟

君を乗せて廻るよ

この宇宙には 星が輝く

君は少し泣いてた

この広い海の彼方

We take the ark of Noah and go.

《ライナーノーツ in 「ノアの方舟 2002 ver.」》

ユダヤ教の旧約聖書に書かれた伝説、ノアの方舟をモチーフとした楽曲です。ストリングスやホーンを多用して、バンド楽器にオーケストラ的な味付けをして、壮大さを演出した曲ですが、曲だけ聴くと、どこが「ノアの方舟」なのかは分かりません（笑）

曲自体は、かなり初期の曲であり、歌詞も拙い言葉で描きました。地球をノアの方舟に例える。その当時は「宇宙船地球号」の概念は知らなかったのですが、そこに結びつく考え方が、わたしの中にもあったんだなー、って感慨深く思い出してしまいました。

#22 『ノアの方舟 Ver. 2010』

青い空を見上げていた 幼い頃の記憶
あの止まり木の下で 君に教えてもらった話
命を救うため船を造った 孤独な男の話

不安になるたび 躓いては転んでいる
だけど 君も僕らも 孤独なままで生きるの？

この惑星ほしはそう ノアの方舟はこぶね
君を乗せて廻るよ
この宇宙うみには 星が輝く
僕は少し泣いてた

奇跡を信じられるほど 簡単な明日じゃない
後ろ指差されても 独り信じ続けていれば
終わりじゃないと 笑顔で言えるから もう少しだけ歩こう

世界の真ん中 冷たい雨 荒れる波を
越えていけば いつかは 大人になれるのでしょうか？

この惑星ほしはそう ノアの方舟
僕を乗せて廻るよ
この宇宙うみには 風が吹いてる
君は少し笑った

この惑星ほしはそう ノアの方舟
君を乗せて廻るよ
この宇宙うみには 星が輝く

僕は少し泣いてた
果てしない空の彼方
僕も少し笑った

《ライナーノーツ in 「ノアの方舟ver. 2010」》

わたし個人として、非常に思い入れのある楽曲だけに、八年越しで、リメイクしたのが「ver. 2010」です。メロディライン（主旋律）は当時のままですが、より壮大になるよう、一から編曲し直して、さらに現在のクオリティで歌詞も書き直しました。

ver. 2002の方が良い、という気もしなくもないですが、これはこれ、それはそれです。

歌詞のテーマは同じく、旧約聖書の「ノアの方舟」ですが、今回もモチーフとしているだけで、さらによりぼやかした雰囲気纏め上げました。また、たとえばまったく同じ文言を並べた、コーラス（サビ）の部分でも、宇宙を「うみ」と読ませるなど、微細なところまで手を入れていきました。

#23 『Calling You』

君にだけつながってる この声を届けたくて
指でなぞる文字を 言葉にして 呼び続けてる

I'm calling you

悲しくなって 青空見上げ
透き通る 涙がこぼれた
小さくなって 消えてしまえば
楽だなと 思う日もあった

今はもう 届くことはないけど
言えるとしたら 伝えたい ありがとう

君にだけつながってる この声を届けたくて
でも言えない気持ちは 少しだけ 心にトゲを残していくよ
君にしか聞こえない この声を送りたくて
指でなぞる文字を 言葉にして 呼び続けてる

I'm calling you

瞳を閉じて 奏でた歌は
寂しげな メロディーのまま
何年経っても 変わることなく
この胸に 響いているから

怯えてた明日を 恐れなくて
君がくれた あの優しさを信じて

君にだけつながってる この声を届けたくて

終わらないものなんてないことは わかっていたはずだったのにね
君の名を叫んでる この声は枯れないから
だからもう 泣かなくてもいいよね 傍にいつでも
You'er following me

君にだけつながってる この声を届けたくて
でも言えない気持ちは 少しだけ 心にトゲを残していくよ
君にしか聞こえない この声を送りたくて
指でなぞる文字を 言葉にして 呼び続けてる
I'm calling you

《ライナーノーツ in 「calling you」》

たまたま読んだ小説に、感動させられることは多々あります。この曲は、そういった感動を胸の奥に閉じ込めたくて、執筆したバードソングです。ある種の二次創作と言えなくもないかもしれません。

わたしを感動させた小説のタイトルは、そのもの「calling you」。角川文庫より出版されている、乙一さんというプロ作家さんの短編小説です。

その小説に、もしもテーマ曲があるとしたら、こんな感じかな、という勝手極まりない妄想で書き上げました。

しかし！！ まさに運命の悪戯なのか、直後、映画化され、ドラマがテーマ曲を発表しました。もちろん、当たり前のことですが、わたしの完敗です（笑）

それでも、小説を読んだわたしの想いが、この曲には詰まっております、思い入れだけあります。

#24 『孤独なトラベラー』

知らないものを知れば また哀しみが増えて
曖昧なもの追えば 寂しさが心奪う

君宛の手紙の文字 「サヨナラ」の一言だけ
終わらない物語に そうさ僕も 孤独だから

メグる世界でまだ 生き残ってるなら
けして後悔はしないよ
旅の果てに見えた 光はきつと
暗闇を引き裂くように

下らない命でも 捨て去れないものなら
理由のない罪でも 赦される日が遠のく

夕風の空を見上げ 君が泣いていたことも
いつか忘れていくだろう それは生きている証拠

生れ落ちた意味は 誰も知らない
この旅に果てなどなくて
僕も君も独り 死んでいく前に
君の名前を叫ぶから

泣かないで 強がらないでと 差し伸べたその手を払って
明日を睨みつけて 僕は歩き始めた たとえその先に闇があっても
メグる世界でまだ 生き残ってるなら
けして後悔はしないよ

旅の果てに見えた 光はきつと
暗闇を引き裂くように

《ライナーノーツ in 「孤独なトラベラー」》

この曲の歌詞の一部を、拙作「奏世コンテイル」の第六十二話で、登場人物のカレンが歌う「旅人の歌」として引用しています。

漠然とした旅人の歌です。どこへ行くのか、何のために旅立つのか、どうして独りなのか、具体的に明言を避けています。そのため、禅問答のようではありますが、その解釈は、読まれた方に委ねたいと思います。

後にも先にも「死」と言う文字を使ったのはこれが初めてで、重苦しさを添えています。それでいて、楽曲自体も、非常にアレンジを重厚に作りこみました。ロックのテイストがあるものの、ロックではなくバラード的アプローチを行い、非常に印象的なピアノ伴奏が特徴です。

#25 『青空のメロディ』

風が吹き抜けてく 街路を歩いたら
君の笑う声が いつでも聞こえたね

早すぎる時間に 切なく揺れてた

青空のメロディ 聞きながら ずっと夢見たい
思い出にしないで この気持ち届くから

世界中の夜空に 煌く星の光
旅路に彷徨った 君にも輝くよ

強くあることだけが 生きる意味じゃない

青空のメロディ 聞きながら その手を伸ばし
遥かなその未来 君の夢を捕まえて

神さまが残した この瞬間ときの中で

青空のメロディ 聞きながら ずっと夢見たい
思い出にしないで この気持ち届くから

《ライナーノーツ in 「青空のメロディ」》

さわやかな曲、歌いやすい曲は、ずっと書きたかった曲です。こ

の曲は、2003年ごろに書いたのですが、よく覚えているのは、四時間で編曲までを終わらせたと言う、超安産曲だったことです。

歌詞は、そこかしこに、メッセー지를散りばめながら、風、星といった、わたしの好きな単語をパズルのようにはめ込んでいきました。

今聞くと、曲も歌詞もキラキラしています。もう、あの頃のキラキラした曲は書けないんだな、と2011年のわたしは少しばかり、悲しくなりました。

おわりに

はじめまして&こんにちわ。

この度は、「Original Songs Lyrics Vol. 1」をお読み頂きありがとうございました。

歌詞を掲載すると言う、「小説家になろう」のルールに違反しているかもしれない、という不安を抱えながらも、当初の予定通り、二十五曲分の歌詞を掲載することが出来ましたので、ここで一旦幕引きとさせていただきますと思います。

一度にあまり沢山掲載しすぎると、目次が増えて、読みづらくなると思いますので……。

歌詞だけを投稿するというのは、ある意味で冒険でした。

すべて、自分で作詞作曲編曲したもので、著作権に抵触したり、JASRACさんなどの著作権団体から怒られる心配はないのですが、それでも、歌詞は楽曲があつて、はじめて一人前になれます。とくに、わたしのように、「曲先」で書いている者の歌詞は、なおさらだと言えるでしょう。

ただ、わたし個人としましては、このまま世に出すことなく、頑張つて書いた歌詞が埋もれてしまうのは不憫で、誰かに見てもらいたいという些細な願望から、連載に踏み切りました。

また、曲を抜いても、詞の世界観だけでも伝えられるかな、と思つたのですが、いかがだったでしょうか？

長い間、沢山の楽曲を書いてきたので、まだストック分が存在しています。それが、傑作か駄作かは、さておいたとしても、いずれ掲載していきたいと思います。

この度は、本当にありがとうございました。読んでいただいた方、お気に入り登録していただいた方、感想を書いてくださった方、皆

々さまに感謝をしつつ……いずれ「Original Song
s Lyrics Vol. 2」でお会いしましょう。

雪宮鉄馬 2011／2

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5815p/>

Original Song's Lyrics Vol.1

2011年10月5日22時17分発行